

「君の椅子」のデザイナーが児童に木偶人形作りを指南

「君の椅子」2008年モデルのデザイナーを担当した造形作家、前川秀樹氏(41) 茨城県在住が9月18、19の両日来町し、東川第二小でワークショップ「木偶(でく)の棒をつくろう」講座を開きました。君の椅子が取り持つ縁で初めての来町が実現しました。



刻刀やノミを使って思い思いのヒト型人形を作りました。「木偶というテーマは、幅広い人たちが参加できる」と前川さんがここ2、3年間各地で開いてきた講座で積極的に扱ってきたテーマだそうです。「子どもたちは初めて刃物を本格的に扱ったはず。刃物は危ないので、慎重に作業してくれました。刃物を使うという点も、子どもたちへのひとつのメッセージになりました」と話していました。

日本地図製作の偉業を振り返る伊能忠敬大図フロンタ展

8月28日から4日間、農村環境改善センターで「伊能忠敬大図フロンタ展 in ひがしかわ」が開かれました。国土地理院北海道地方測量部、上川調査設計協会(旭川、山根力会長)が中心となつて「測量の日」(6月3日)の記念事業として開きました。



蝦夷地部分の展示は、札幌、帯広、留萌、旭川に次いで5カ所という数少ない公開展示です。社会科学授業で訪れた東川小児童は、ホールいっぱい広がる蝦夷地大図

の大きさにびっくり。50歳で天文学を学び始め、江戸末期の1800(寛政12)年、55歳で全国測量を始めました。71歳まで17年間10次にわたって全国約4万4千キロ(地球一周は約4万キロ)を測量しました。73歳の没後3年を経た1821(文政4)年、弟子たちの手で日本大図が完成しました。原図は江戸城大火災(明治6年)と関東大震災(大正12年)で消失。現存しているのは米国国会図書館にあった207枚など、214枚(蝦夷地34枚)の複製図です。

大阪府立工業高等学校が修学旅行で来町ー写真甲子園の撮影ステージを終って大満足

写真甲子園の出場校として馴染み深い大阪市立工業高校(吉村俊昭校長)の生徒一行約250人が、9月18日から21日まで3泊4日間、大会の撮影ステージを巡るユニークプランの修学旅行で町内を訪れました。旭岳姿見の池周辺、天人峡、美瑛町内の十勝岳望岳台、千代田牧場、

「四季彩の丘」就実の丘」など、次々と広がる雄大な美しい大自然の撮影スポットに「いつまでもここにいたい」という感想の声も。天人峡温泉のホテルでは、水士会メンバーがチェンソー一本で見える間に作り上げ



ていく水彫刻に、生徒たちの目が釘付け。このあと挑戦した水彫刻の出来栄は、芸術系学校の生徒だけあつてデザイン感覚みことな作品が出来上がりました。写真美瑛の丘めぐりサイクリング、かぼちゃ収穫体験、富良

野市内で川下りラフティング、乗馬体験、ソーセージ、アイスクリーム作り、旭山動物園見学など盛りだくさんの体験メニューにも大満足。同校は、過去15回の写真甲子園開催中、最多の出場11回を数えています。うち4回準優勝を収め、本町に馴染み深い高校です。

今年の新米がおいしい 新米の品質

9月10日、今年の町内米出荷が始まりました。トツブを切つて出荷したのは西部第一農事組合の泉栄さん(56)。この日は水田4・5畝の中から66袋(1袋30キロ)を出荷し、全量1等米で好スタート。15日に行われた新米キャンペーンで販売するための東川米「ほしのゆめ」としての出荷です。昨年より2日早く、上川管内トツブを切つての出荷になりました。

の結果に目を細めました。

昨年は平年並み収量でしたが、今年の収量は「やや良」(8月下旬現在)と好調。不稔も少なく、手ごたえを感じる出来秋です。9月の収穫期におおむね好天が続いた町内は、順調に米の登熟が進み、20日前後を最盛期に刈り入れ作業が順調に進みました。

東川町農協によると、今年の新米入庫予定数量は、割り当て限度数量20万8千俵のうち、主食用米17万1852俵(1俵60キロ)。良好な出荷が続いており、最終的には昨年より相当の収量増が期待されています。



輝きのある米に必要な水分量は、基準値内にピッタリと収まって15・3%、おいしさの基準となるタンパク含有量は、国内産上位品種に匹敵する6%、粘りの基準を図るアミロース含有量は21・3%など「実が大きくスーパー級の品質」と太鼓判の結果。東川町農協集出荷センターには松岡市郎町長、板谷重徳東川町農協組合長も駆けつけ、好スタート

エア・ドゥの植樹の調印

北海道国際航空エア・ドゥ(札幌、淡路均社長)が「東京(羽田)ー札幌(千歳)」間に定期航空便を就航して今年10周年を迎えるのを記念して、町内に記念植樹をすることになり、9月9日上川支庁で植樹調印式がありました。

道が提唱する「ほっかいどう企業の森づくり」に呼応し、道内の就

好評新米キャンペーンで東川町家族連れが賑わった

9月15日、キトウシ森林公園で町、東川町農協などが共催して新米キャンペーンが開かれました。今や出来秋の恒例行事。トツブを切つて産地直売のおいしい新米が食べられるとあつて、旭川市内や近郊の町ばかりでなく、「毎年楽しみにしている」と遠く札幌市内から訪れた人の姿も。



を1人で10袋、20袋と買い入れる人の姿も。本州送りなどの発送を受け付ける会場の宅配便臨時受け付けも好調でした。休日のレジャーをかねて訪れた家族連れいっぱいのも、新米が当たる「みんなでじゃんけん大会」、東ねた稲わらを投げてその距離を競う「稲わら投てき選手権」、地元バンド・R212のライブ演奏など楽しい催しも目白押し。食欲の秋も満喫し、3連休最後の一日を楽しんでいました。

8レーンに仕切ったドライブスル1の新米受け渡し口は、混雑もなく順調な受け渡し。新米の予約量は23トンに達し、1袋10キロ入りの米袋

ました。

植樹祭は10月18日(土)、東3号

航路線4地域(札幌、函館、旭川、女満別)でそれぞれ植樹することになり、そのうちの1カ所として本町が選ばれました。調印式は、坂口収支庁長の立会いで淡路社長と長原淳副町長が森林整備に関する協定書に調印し



北6線の町有地で行う予定です。町の「ふるさとの森」整備計画の予定地になっています。当日は同所の約1畝に「エア・ドゥの森」としてミズナラ、シラカバ、ヤチダモ500本を植樹予定です。